

日清製粉グループ 第1四半期連結決算、通期連結業績予想

**第1四半期は売上高1,143億72百万円、経常利益72億22百万円。
通期業績予想は当初予想通り。**

[平成22年3月期第1四半期連結決算]

(株)日清製粉グループ本社(社長 村上 一平)の平成22年3月期第1四半期につきましては、世界的な景気悪化の影響を受け、引き続き個人消費が低迷するなど市場環境が厳しさを増す中、新製品の開発・販売、広告宣伝活動の積極的な推進などの売上げ拡大施策を実行するとともにグループを挙げたコスト削減に取り組みました。そのような中、本年4月に3年振りに輸入小麦の政府売渡価格が平均14.8%引下げられたことを受け、製品価格改定を実施いたしました。

また、本年4月には平成22年度までの2か年の新経営計画「日清製粉グループ行動計画 GO, 2010」をスタートし、その目標達成に向けた取組みを開始いたしました。

この結果、第1四半期の業績は、売上高は1,143億72百万円(前年同期比99.5%)となりました。利益面では、昨年9月の東灘製粉工場新ラインの本格稼働を始め、各事業におけるコスト削減により、営業利益は62億29百万円(前年同期比119.8%)、経常利益は72億22百万円(前年同期比111.9%)、四半期純利益は42億64百万円(前年同期比129.1%)となりました。

[平成22年3月期通期連結業績予想]

第1四半期の業績は順調に推移いたしましたが、現在の景気低迷局面におきましては、さらなる需要の減退や、消費者の皆様の節約志向がますます強まるものと想定しております。当社グループにおきましても、第2四半期以降、主力事業である製粉、食品事業におきまして、このような経済状況の中、厳しい販売環境が継続するものと思われれます。一方、国際穀物相場、為替相場及び原油相場も依然として不安定であり、それらの動向が各事業のコストや副製品であるふすまの価格に影響を及ぼす懸念があります。また、エンジニアリング事業及びメッシュクロス事業におきましては、景気低迷が継続した場合、業績の回復に影響する恐れがあります。以上の状況を勘案し、当社は第2四半期業績予想、通期業績予想につきましては当初予想通りとしております。

当社グループは、こうした厳しい環境を乗り越えていくために、研究開発費及び広告宣伝費等戦略経費の積極的な投入により需要喚起を図っていくとともに、前述の新経営計画に織り込みました各施策を着実に実行し目標数値を上回る業績を達成するよう努力いたします。

以上により、当年度の業績見通しは、当初の予想通り、売上高4,620億円(前期比99.0%)、営業利益は203億円(前期比93.3%)、経常利益は228億円(前期比92.6%)、当期純利益は128億円(前期比92.4%)としております。

以上